

平成 27 年度 青少年教育施設指定管理者外部評価委員会の評価概要

(社会教育課)

1 指定管理者外部評価委員会の目的

指定管理者による管理、運営及び事業が県の施設として健全に行われているか評価を行い、適切な管理運営や提供するサービスの向上を図る。

2 指定管理者外部評価委員会

施設	役職	立場	氏名	所属	経験
朝霧 野 外 活 動 セ ン タ ー	委員長	学識経験者	猿田 真嗣	常葉大学教育学部 教授	1年
	委員	利用者代表(学校)	井出 暢一	富士宮市立人穴小学校 校長	2年
	委員	危機管理専門家	池田 浩敬	常葉大学社会環境学部 教授	2年
	委員	野外活動専門家	脇坂 茂	日本ボーイスカウト静岡県連盟 事務局長	1年
	委員	財務専門家	兼高 則之	公認会計士兼高会計事務所	3年
三 ケ 日 青 年 の 家	委員長	学識経験者	瀬戸 知也	静岡文化芸術大学文化政策学部 教授	4年
	委員	利用者代表(学校)	青木 篤郎	浜松市立三ヶ日中学校 校長	1年
	委員	危機管理専門家	前田 恭伸	静岡大学大学院工学研究科 教授	1年
	委員	海洋活動専門家	鉄 多加志	東海大学海洋学部 講師	4年
	委員	財務専門家	鎌田 将行	鎌田公認会計士税理士事務所	1年

3 評価の視点及び評価の材料

【 評価の視点 】

- ・ 管理運営が適切に行われているか。
- ・ 利用者へのサービスの向上が図られているか。

【 評価の材料 】

- ・ 各種報告書（収支状況、維持管理、利用状況、施設運営、事業運営 等）
- ・ 利用者アンケート及びモニター調査（学校利用、団体利用、主催事業 等）
- ・ 現地視察（施設の管理状況、利用者の活動状況の視察）

4 評価委員会開催状況

施設	開催日	会場	協議内容	
朝霧	第1回	8月3日(月)	朝霧野外活動センター	ヒアリング、利用者活動状況視察等
	第2回	11月24日(火)	観音山少年自然の家	他施設視察
	第3回	12月21日(月)	西館8階第3会議室	評価資料の検証
	第4回	2月12日(金)	西館8階第3会議室	平成27年度の評価決定
三ヶ日	第1回	8月7日(金)	三ヶ日青年の家	ヒアリング、利用者活動状況視察等
	第2回	9月29日(火)	焼津青少年の家	他施設視察
	第3回	11月17日(火)	西館8階第3会議室	評価資料の検証 施設の在り方検討
	第4回	2月10日(水)	西館8階第3会議室	平成27年度の評価決定

5 年度評価結果

- (1) 朝霧野外活動センター 年度評価結果（別紙1-1）
- (2) 三ヶ日青年の家 年度評価結果（別紙1-2）

6 期間評価（今年度は三ヶ日青年の家が該当）

年度評価とは別に、各年度の評価結果や改善状況を踏まえ、期間全体における施設の利用実績や管理運営状況、及び指定管理者に期待する成果の達成度を検証し、指定管理者による管理運営の効果が認められるかを判断する。併せて、施設の必要性や管理形態の在り方についても検証・検討する。

期間評価は、指定期間の最終年度、次期指定管理者の選定手続き開始前までに実施する。

（参考）指定管理期間

年度	22	23	24	25	26	27	28
期	第1期 (3年間)			第1期 (1年間の延長)	第2期 (3年間)		
指定 管理者	(株)小学館集英社 プロダクション				三ヶ日フィールド パートナーズ		

7 期間評価結果（別紙2）

8 三ヶ日青年の家 次期指定管理者の選定スケジュール

- (1) 公募期間 平成28年6月1日から平成28年6月30日
- (2) 選定
7月 審査会（書類審査・プレゼンテーション）
8月 教育委員会定例会 候補者選定結果報告
9月 議会議決（指定）

9 その他

外部評価委員会による評価結果は、3月11日に教育長、教育次長に報告し了承を得た。また、同日指定管理者にも評価および要望項目について伝達し、次年度の運営へ反映させるよう要望した。

平成 27 年度 静岡県立朝霧野外活動センター指定管理者外部評価委員会 評価結果

◇ 9段階評価ポイント

評価項目		評価ポイント		
		27年度	26年度	25年度
評価の総括		A	A	A
項目別評価	①青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A	A-	A
	②青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A	A	A
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A	A	A
	④学校利用への適切な対応	A	A	A-
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A	A	A-

(参考) 9段階評価ポイントの意味

記号	意味	その他
A	十分満足できる	心象としてABCに対し上回るか下回るかにより、必要に応じて+-の付加記号を付ける。
B	おおむね満足できる	
C	努力を要する	

◇ 評価の総括 [9段階評価 A+ **A** A- B+ B B- C+ C C-]

- ・青少年教育施設としての使命・目的を十分に果たすことができ、各アンケート項目において利用者から高い評価が得られている。
- ・職員の対応等が高く評価されており、利用者・利用団体からの信頼が構築されつつある。
- ・アンケート調査などを通じて、日常的な点検・評価が図られており、把握された課題・問題を職員間で共有し、迅速に対応する組織体制がとられている。
- ・施設・設備の経年劣化や故障等により、利用者の満足度や事業への影響が出始めているものの、教育委員会と緊密な協議を図り、迅速に対応する体制がとられている。
- ・学校の教職員や団体の指導者などへの研修の機会を充実させながら、野外活動・体験活動の効果を更に高める取組を継続していただきたい。
- ・様々な主催事業を通して、青少年育成ならびに指導者養成の機能を積極的に果たそうと努めている。
- ・収支面では、節電や一部事業の有料化などの取組により、収支差額の改善が見受けられる。次年度以降、施設の経年劣化等により修繕費が一定額必要で、人件費の削減は難しいことや経費削減には限界があることを考えると、収支差額の改善のためには自主事業の増加による収入増を図る必要があると考えられる。

◇ 要望項目

- ・ヒヤリハット事例を利用団体の安全指導に積極的に生かそうという姿勢が維持されているが、専門的な見地からの効果的な安全対策を丁寧に続けてほしい。
- ・調査研究活動などを通じて、事業効果の検証を進め、当該分野の拠点施設としての社会的役割を果たしていただくことを期待する。
- ・近年利用者が伸びているキャンプ場について、樹木を剪定し日照を確保するなど、より使いやすくなるような整備と、さらなる利用促進を図っていただきたい。
- ・施設の老朽化に伴う経年劣化の影響については迅速に対応しているが、主管課と協議の上、中長期的な計画に沿った対応を求めたい。
- ・噴火対策マニュアルの作成、地震対策マニュアルの見直しについては、可能な限り速やかに具体化を図っていただきたい。

◇ 項目別評価

①青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理 [9段階評価 A]

- ・利用者アンケート調査では、施設・設備の使いやすさの点で、本館、キャンプ場ともに昨年度より評価が更に高まるなど、全般的に高い評価が得られている。
- ・整理整頓、清掃等、衛生美化に関して特に高い評価を得ている。
- ・指定管理者モニター調査でも全体としては昨年同様の高い評価が得られているが、テントの使いやすさについては、テントの経年劣化に伴うファスナーの破損、防水機能の低下などの影響により、一昨年から昨年、今年と連続して評価が下がっている。主管課と補修・更新についての協議が必要と考えられる。
- ・トイレの洋式化など、社会環境の変化への対応についても検討して頂きたい。
- ・日常点検の現状に問題は無いが、老朽化が進む施設に起因する事故の危険等が生じないように引き続き十分な配慮をお願いしたい。

②青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営 [9段階評価 A]

- ・青少年教育施設として適正かつ良好な運営が行われており、使いやすさ、満足度において利用者・利用団体から高い評価を得ている。
- ・年間利用者実績が目標を上回り、ホームページや各メディアを通じた広報・情報提供活動の効果が表れている。
- ・職員の接遇と活動プログラムについても高評価を得ている。引き続き、安心・安全に配慮した運営を心掛けていただきたい。

③青少年の健全な育成を図る事業の運営 [9段階評価 A]

- ・自然環境ならびに施設の特性を生かした多彩な主催事業には、募集定員に近い参加者数を集めている。これらの事業について、90%を超える利用者から満足との回答が示されている。
- ・閑散期にも魅力的な事業を用意し、利用拡大に努めている。今後は、10月以降のキャンプ場の利用促進について一層の工夫をお願いしたい。
- ・利用団体に対し、リスクマネジメントなどを研修する事業を定期的で開催していることは、安心・安全な施設を実現する上で重要である。より多くの利用者が参加できるよう、開催期日や広報などの一層の工夫をお願いしたい。

④学校利用への適切な対応 [9段階評価 A]

- ・事前打合せと下見を徹底させるなど、安全で有意義な活動とするための指導・助言が積極的に行われている。
- ・活動プログラムを豊富にそろえることで、学校の利用目的に応じた対応や悪天候時における安全な活動提供等、的確な対応がなされている。
- ・ヒヤリハット事例では、学校側の管理・指導の範疇と思われる事例もあるので、施設管理者側の安全確認とともに、学校の指導者・引率者へのさらなる啓発、注意喚起、情報提供を徹底していただきたい。

⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開 [9段階評価 A]

- ・利用者アンケート等では、野外活動の専門機関として非常に高く評価されている。今後も専門性を生かした指導力向上の努力をお願いしたい。
- ・利用団体の指導者（学校の教員を含む）に対する事前訓練や安全対策教育の場を提供し、利用団体指導者の野外活動における指導力向上にも寄与していただきたい。
- ・朝霧の自然や地形、歴史・文化などを活かしたプログラム開発を続けていただきたい。

平成 27 年度 静岡県立三ヶ日青年の家指定管理者外部評価委員会 評価結果

◇ 9段階評価ポイント

評価項目		評価ポイント		
		27年度	26年度	25年度
評価の総括		A-	B+	A-
項目別評価	①青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A	B+	B+
	②青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A-	A-	A
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A-	B+	A-
	④学校利用への適切な対応	A-	B+	B+
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A	A-	A-
	⑥安全な海洋活動に向けての取り組みについて	A-	B+	A-
	⑦次期指定管理者への引継ぎの実施について			A

(参考) 9段階評価ポイントの意味

記号	意味	その他
A	十分満足できる	心象としてABCに対し上回るか下回るかにより、必要に応じて+-の付加記号を付ける。
B	おおむね満足できる	
C	努力を要する	

◇ 評価の総括 [9段階評価 A+ A **A-** B+ B B- C+ C C-]

- ・前年度よりも利用団体数・利用者数ともに増加した。職員の対応等に関する利用者の評価も良好である。地元の学校や住民との結びつきを重視し、限られた条件の中で地域の特徴を活かした事業の開発や工夫を行っている点は高く評価できる。
- ・海洋活動の再開に向けて、各種の安全対策や危機管理対策の質の向上に努力している点も評価できる。一方で、利用者のニーズに対応したよりきめ細かな施設管理や地域の特徴を活かすとともに青少年の健全な育成を図る事業の展開、学校関係者による利用の促進等については、まだ改善の余地があるように思われる。
- ・今後も、各項目内容に関して継続的に点検・評価を実施し、青少年教育施設としての目的に合った、安全で安心な活動を保障できるように、健全で公正な管理運営に心掛けていただきたい。
- ・指定管理者三ヶ日フィールドパートナーズの構成企業の1社が前年に引き続き債務超過の状況であるが、同社の資金繰りを考えると、三ヶ日フィールドパートナーズの安定的な事業継続に支障はないと考える。

◇ 要望項目

- ・利用者の特性に合わせた指導や対応の在り方について研修を重ね、所員の指導スキルの更なる向上を求めたい。
- ・利用団体のより充実した研修のために、朝夕のつどいを活用するなど、利用者同士の交流の場を工夫していただきたい。
- ・雨天時等の屋内プログラムの工夫として、「応急処置法」等に関して、三ヶ日青年の家ならではのプログラムの開発を期待したい。

◇ 項目別評価

①青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理 [9段階評価 A]

- ・前年度よりも利用者からの評価は高くなっている。
- ・一方でログハウスの管理等について、利用者からのさまざまな要望や意見が見られるため、より安全により快適に、そしてより充実した研修ができる施設を目指していただきたい。

②青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営 [9段階評価 A-]

- ・ほとんどの利用者から高い評価を得ていて、全体としては十分な管理が行われている。
- ・より丁寧なアレルギー対応など、食事への要望については引き続きご検討いただきたい。
- ・施設側と利用者との綿密な打ち合わせに加えて、利用者同士のコミュニケーションも、より充実した研修のためには必要だと考えられる。

③青少年の健全な育成を図る事業の運営 [9段階評価 A-]

- ・地元の学校や住民との結びつきを重視し、地域の特徴を活かした事業の開発・工夫がみられる。
- ・事業数も増えており、多くの利用者から評価を得ている。限られた条件の中で最大限の効果を上げようと努力している点は評価できる。
- ・新たな事業については、健全な青少年の育成という観点から点検・評価を行い、各事業が、青少年教育施設としての目的に合うよう改善されていくことを期待したい。

④学校利用への適切な対応 [9段階評価 A-]

- ・教育委員会や校長会へ定期的に訪問したり、近隣校に対して事業紹介をしたりするなど、社会教育施設として広く利用されるための努力を重ねている。また、職員の対応も親切・丁寧で、安全な活動のための事前打合せ等の充実も見られ、多くの学校関係者からは十分に満足できる評価を得ている。
- ・地元中学校との「学び」を通しての連携や地域のボランティア団体との活動における連携等、精力的な動きが見られるが、浜松市全域や他地区への広がりという点では、発展途上であると言える。
- ・海洋活動再開の目途が立っていない段階での広報活動には、やや遠慮があると思われるが、現状を認識しつつ存在価値・利用価値を高めていくためには、更なる広報活動の工夫が必要である。また、所員と利用者のみならず、利用者同士の連携が図れるような事前打合せや活動の工夫が必要である。

⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開 [9段階評価 A]

- ・地域と隔絶されている施設が多い中、当所は地域の中の施設であるという意識や地域との連携に対する意識が高く、地域との関わりを大切にした事業を地域と共に精力的に展開している点は大いに評価できる。また、あらゆる層の利用者が研修の目的を達成し、満足感や達成感を得られるよう、所員が日々研修していることも評価したい。さらに、地元の小中学校に施設を開放し、子供たちの「学びの場」となっていることも特筆すべきことである。
- ・限られた条件の中での青少年教育施設としての特色を生かした活動に工夫が見られ、利用者の満足度も高いが、今後は地域性を活かした人と人とのつながりや人間性に踏み込んだ、質の高い活動の展開を今まで以上に期待したい。

⑥安全な海洋活動に向けての取り組みについて [9段階評価 A-]

- ・安全な海洋活動へ準備の点では、マニュアルの整備、現場に即した対応訓練も実直に行っており、船舶の操船・練習等の記録からも、取組が再開に向けての最終段階に入ったことが分かる。
- ・今後海洋活動や緊急対応訓練を実施するに当たり、利用者の年齢や状況に応じた指導や対応の在り方を研修・訓練するなど、所員の資質向上に努めていただきたいと考える。

平成 28 年 3 月 16 日

県立三ヶ日青年の家 指定管理第 2 期 期間評価結果報告

(社会教育課)

1 施設の必要性と管理形態の在り方について

(1) 施設の設置目的

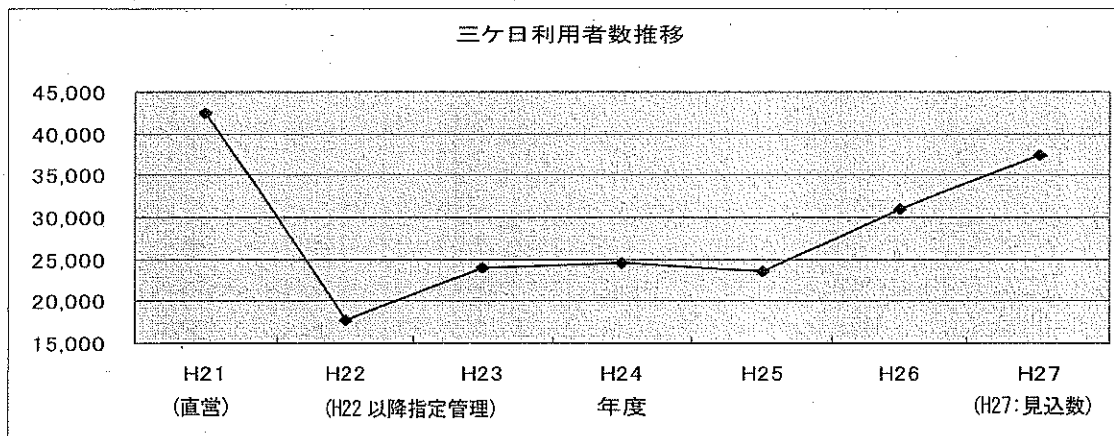
青少年教育施設は、「団体宿泊訓練又は野外活動その他の自然に親しむ活動を通じて、青少年の健全な育成その他の社会教育の振興に寄与する」(設置条例第 2 条)ことを目的として設置された。また、青少年教育施設は、その特性を生かした様々な活動を通じて、子どもたちに「思いやり」「たくましさ」「達成した喜び」などを身に付けさせる場として、より一層期待されている。

(2) 指定管理制度導入の基本方針

- ・民間でできることは、民間に委託することを基本とする。
- ・多様化する社会のニーズに対し、より効果的、効率的に対応するため、民間の能力を活用し、利用者へのサービスの向上と、効率的な管理運営を図る。

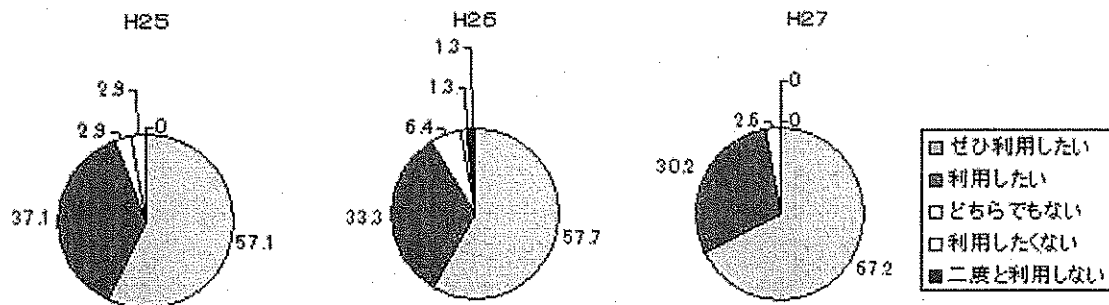
(3) 利用者数

繁忙期に休所日を廃止するなど、利用者の利便性向上を図るとともに、地域に根ざした自主事業を実施しており、事故後に落ち込んだ利用者数は回復傾向にある。



(4) 利用者の評価

「また施設を利用したいと思いますか」との、利用者モニター調査での質問に対し、9割以上の団体が「ぜひ利用したい」「利用したい」と回答している。



(5) 経費削減

指定管理者の導入により、県直営時と比較して、1年間の経費では約22百万円、人件費では約30百万円の経費削減が図られている。(単位:千円)

年度		21年度(a)	26年度(b)	増減(b-a)
管理形態		直営	指定管理	
年間経費		133,130	110,706	△22,424
内 訳	(うち指導費)	394	291	△103
	(うち運営費)	7,268	15,992	8,724
	(うち管理費)	38,158	36,713	△1,445
	(うち人件費)	87,310	57,710	△29,600

(6) 外部評価委員会による評価

① 年度評価

指定管理者として運営のノウハウが蓄積され、事故以降の安定した運営により、これまでの外部評価委員会でも一定の評価を受けている。

年度	22	23	24	25	26	27
期	第1期			第1期(延長)	第2期	
指定管理者	(株)小学館集英社プロダクション				三ケ日フィールドパートナーズ	
総合評価	—	B+	A-	A-	B+	A-

※ A+・A・A-・B+・B・B-・C+・C・C-の9段階評価

② 第3期(26・27年度の2年間)の期間評価

現在の指定管理者である三ケ日フィールドパートナーズは、地域との連携、安全体制の向上を積極的に進め、期間評価でも高い評価を受けている。

評価項目		評価ポイント
評価の総括		A-
項目別評価	①青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A
	②青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A-
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A-
	④学校利用への適切な対応	A-
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A
	⑥安全な海洋活動に向けての取り組みについて	A-

③ 26・27年度の運営に対する外部評価委員の意見

- ・三ケ日青年の家は、民間の力によって施設が活性化されており、指定管理による効果が表れている。

(7) 県教育委員会による指定管理者に対する評価

- ・地域との連携を重視すると共に、施設の特徴や立地を生かした取組により、新規利用者を中心に利用者数は着実に増加している。今後は学校利用がさらに伸びることを期待したい。
- ・直営時に比べ、効率的な運営により経費削減が図られると共に、計画的な所員配置により利用者に対してきめ細かな対応がなされ、利用者から高い評価を得ている。
- ・海洋活動の再開に向けて研修や訓練を重ねると共に、地元消防・警察・関係者との連携強化に努めている。安全体制に「絶対」はなく、今後も引き続き安全体制の向上に取り組んでいく必要がある。

平成27年度 指定管理者外部評価委員会の年度評価資料概要

1 朝霧野外活動センター

(1) 利用者数

繁忙期には休所日を廃止して利用者を受け入れており、近年利用者数は高い水準を維持している。

年度	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26	団体数	16	50	59	67	63	49	38	40	45	49	44	69	589
	延人数	2,895	6,979	8,491	9,449	8,607	9,261	6,853	7,927	2,926	2,396	2,255	5,624	73,663
27	団体数	14	54	53	78	68	70	39	46	53	55	36	61	627
	延人数	2,689	8,363	6,790	11,772	9,439	10,002	6,333	5,896	3,272	2,108	2,152	4,733	73,549

(2) 利用料収入

(千円)

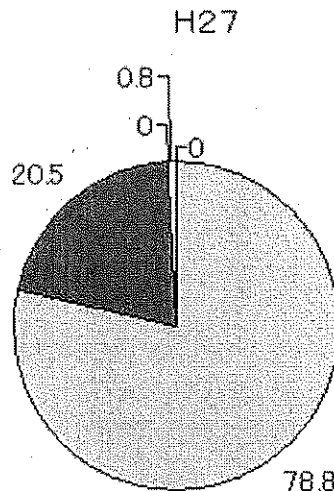
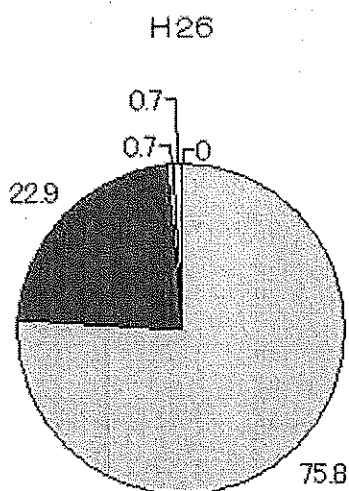
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26	1,065	633	583	649	1,498	635	1,064	242	441	278	329	828	8,245
27	1,150	1,121	247	786	1,793	743	1,220	324	493	278	329	828	9,312

※1～3月は概算

(3) アンケート結果

質問項目「また施設を利用したいと思いますか」

※利用団体に対して実施



- ぜひ利用したい
- 利用したい
- どちらでもない
- 利用したくない
- 二度と利用しない

2 三ヶ日青年の家

(1) 利用者数

繁忙期に休所日を廃止したり、地域に根ざした自主事業を実施したりしており、事故後に落ち込んだ利用者数は回復傾向にある。

年度	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26	団体数	23	31	32	32	40	31	24	26	12	11	16	30	308
	延人数	2,492	3,495	2,233	2,650	5,095	4,026	2,010	879	1,527	706	1,552	4,245	30,910
27	団体数	27	42	33	46	55	32	32	24	22	11	16	30	370
	延人数	3,879	4,300	3,124	3,209	3,981	6,500	2,370	1,965	1,722	706	1,552	4,245	37,553

(2) 利用料収入

(千円)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26	538	371	126	703	1,374	353	219	376	317	125	904	1,202	6,608
27	1,263	412	343	493	944	587	492	1,049	457	125	904	1,202	8,271

※1～3月は概算

(3) アンケート結果

質問項目「また施設を利用したいと思いますか」

※利用団体に対して実施

